

マスターオブ

Web開発のエキスパートになる!

第6回

データコントロール活用法 - Part5 -

葛西 秋雄 | 有限会社フレンドリーソフト
KASAI, Akio | <http://www.friendlysw.com/>

Level

1 2 3 4 5

Technology Tools

- Visual Basic
- Visual C#
- Visual C++
- SQL Server
- Oracle
- Access
- ASP.NET
- Other:

Samples

- ・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、<http://www.shoehisha.com/mag/windev/>からダウンロード可能です。
- * サンプルを実行するには、データベース (MDB) が格納されているフォルダに書き込み権限を追加する必要があります。詳細は、以下のURLに掲載されているMSサポート技術情報 (307901) 参照。
<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;307901>

はじめに

前は、データコントロールに列の並べ替え機能を追加する方法を説明しました。

「データコントロール活用法」最終回のPart5では、データコントロールに追加、編集、削除機能を組み込む方法を説明します。これらの機能はDataListとDataGridで利用できますが、今回はDataGridを使用したサンプルを紹介します。

DataGridに編集機能を組み込む

DataGridに編集機能を組み込むには「編集」ボタン列を追加して、DataGridにEditCommand、UpdateCommand、CancelCommandイベントハンドラを登録します。これらのイベントハンドラには、DataSet (DataTable) に格納されてい

るレコードを更新したり、データベースに書き込む処理を追加します。ここで作成するサンプルは、Data Gridから編集したデータをData Table上で更新して、DataAdapterのUpdateメソッドでデータベースに反映します。

コントロールの配置

新規Webフォームを作成したら、ツールボックスから「Label」をデザイナーにドラッグ&ドロップします。デザイナーにLabel1のオブジェクトが作成されたら、プロパティウィンドウから(ID)プロパティを「lblMessage」に書き換えます。さらに、EnableViewStateプロパティを「False」、ForeColorプロパティを「Red」に設定します。

次に、ツールボックスから「Data Grid」をデザイナーにドラッグ&ドロップします。デザイナーにDataGrid1のオブジェクトが作成されたら、DataGrid1の右クリックから「プロ

パティビルダ] を選択します。

「DataGrid1プロパティビルダ」が表示されたら、左側から [列] をクリックします。「実行時に自動的に列を作成する」のチェックをはずし、「使用可能な列」から [連結列] を選択して [>] ボタンをクリックします。「選択された列」に「連結列」が移動したら、Bound Columnプロパティの「ヘッダーテキスト」に「ID」、「データフィールド」に「CustomerID」を入力します。「読み取り専用」をクリックしてチェックマークを付けます (CustomerIDは、主キーのフィールドのため変更不可とします)。

同様の手順で、表1に示すように「得意先」「担当」「電話」の連結列を追加します。

「使用可能な列」から [ボタン列] を展開したら、[編集、更新、キャンセル] を選択して [>] ボタンをクリックします。EditCommandColumnプロパティの「ボタンの種類」から [PushButton] を選択したら (図1)、[OK] ボタンをクリックしてプロパティビルダを閉じます。すると、DataGridのヘッダーに連結列と編集ボタン列が表示されます (図2)。

Page_Loadイベントハンドラの作成

デザイナの右クリックから [コードの表示] を選択します。コードウィンドウが表示されたら、Page_Load イベントハンドラに、リスト1のコードを追加します。

Page_Load イベントハンドラでは、Connection、DataAdapter、CommandBuilderのインスタンスを生成します。CommandBuilderは、DataAdapterのSelectCommandプロパティに格納されているSQLを基に、レコードを追加、更新、削除するためのSQLを自動的に作成します。

DataAdapterのSelectCommandに格納されているSQLステートメント

```
SELECT CustomerID, CompanyName, ContactName, Phone
FROM Customers
WHERE CustomerID > 45
ORDER BY CustomerID
```

表1：DataGridに追加する連結列とプロパティ

ヘッダーテキスト	データフィールド	読み取り専用
ID	CustomerID	✓
得意先	CompanyName	
担当	ContactName	
電話	Phone	

図1：DataGridのプロパティウィンドウから [編集] ボタン列を追加



図2：DataGridのヘッダーに連結列と編集ボタン列が表示された

ID	得意先	担当	電話	
データバインド	データバインド	データバインド	データバインド	編集

リスト1：ページロード時のイベントハンドラ (dg1.aspx.vb)

```
Private Sub Page_Load(ByVal sender As System.Object, _
ByVal e As System.EventArgs) Handles MyBase.Load
Dim strSQL As String = _
"SELECT CustomerID, CompanyName, ContactName, Phone " & _
"FROM Customers " & _
"WHERE CustomerID > 45 " & _
"ORDER BY CustomerID"
Dim strConnectionString As String = _
String.Format( _
"PROVIDER=Microsoft.Jet.OLEDB.4.0;DATA Source={0}", _
Server.MapPath("~/webdb/Nwind.mdb"))
mcon = New OleDbConnection(strConnectionString)
mda = New OleDbDataAdapter(strSQL, mcon)
mcb = New OleDbCommandBuilder(mda)
If Not IsPostBack Then
BindDataGrid()
Else
mdt = CType(Session(conSessionKey), DataTable)
End If
End Sub
```